

平成27年度第3回砺波市総合教育会議 概要報告

- 1 開催日時 平成28年2月22日(月)午後3時～4時30分
- 2 開催場所 砺波市役所3階小ホール
- 3 出席者 夏野市長、齋藤教育委員長、小櫻教育委員長職務代理者、林教育委員、信田教育委員、山本教育長
- 4 出席職員 横山企画総務部長、三部教育委員会事務局長、北島教育委員会事務局次長、畑教育委員会事務局次長、島田企画調整課長、島田教育総務課長、構生涯学習・スポーツ課長、中島砺波・庄川図書館長、河合企画調整課主幹、石黒教育総務課主幹
- 5 傍聴人 1人
- 6 議 事
 - (1) 平成28年度当初予算案の概要について
 - (2) 新砺波市教育大綱策定に向けて
 - (3) 教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について
 - (4) その他
- 7 主な意見
 - (1) 平成28年度当初予算案の概要について
 - ・教育費の比率は下がっているが、手厚くなっている。「となみーていんぐ」でお聞きしたことなどで、できることはすぐに着手した。学校現場からの要望も入っているので、ご理解いただきたい。
 - (2) 新砺波市教育大綱策定に向けて
 - ・主要施策1番目には「子育て」、2番目には「学校教育」、3番目には「子どもの成長を支える家庭・地域づくり」、4番目に「ふるさと学び楽しむ環境づくり」、5番目「生涯学習・スポーツの振興」とすれば小さい時から大人今にいたる流れがつくられると思うがどうか。
 - ・サブタイトルをつけたらどうか
 - ・子どもが生まれた時から高齢者へのライフステージに合わせた流れが大事ではないか。
「自立と共生」は高齢者にとっても大事なこと、「生涯を通して自立と共生をして生きよう」とすれば、流れが広がり繋がっていくのではないか。年長者が手本をしめすことは、同じ目標が揃って一体感が持てる。
 - ・1乳幼児、2学齢期、若者から高齢期、4芸術文化をとおして、5スポーツをとおして、具体的には、1自立と共生の基礎をつちかう、2自立と共生と育て伸ばす、3自立と共生を広く深く とすればスムーズに

繋がっていく。

- ・教育は人づくり、1 幼児教育から学校教育、2 社会教育関係、3 生涯学習、4 芸術文化、5 スポーツにしてはどうか。主要施策を基本方針としてはどうか。

(3) 教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について

- ・特別支援教育は、早期発見、早期治療、3 歳児検診で判明する。それをどのように受け止めて頂いて、専門家に見て頂き、小学校に上がる3 年間で積み上げると幼児期の目立った子ども達が、目立たなくなっている例がある。しかし、親御さんはそれを受け止めるということもわかった。こども課の相談員が働きかけて進めている。早く見つけて治療をすることが大事である。
- ・親が受け入れない。受け入れられない。祖父母の理解が大事である。相談員等の第三者がうまく説明をして頂けると保護者も受け入れやすい。相談体制が大事である。
- ・支援員をたくさん配置して頂いているが、人材確保が大変であると感じる。支援員の研修に力を入れて質の向上も必要ではないか。
- ・教員の交流ができないものかと感じる。
- ・成功例をいくつか紹介できないものか。そういう研修があればと思う。
- ・庄川小学校のコンピュータ室のパソコンが、デスクトップからノートパソコンに変わっていた。それもタブレットになるものであった。教室から取り出して使えることやカメラとしても使えると使い道は広がったと喜んでいた。
- ・ICT 教育については、経費も係るが、ノートパソコンやタブレットの時代かと思う。
- ・庄川小学校は、更新の時期に合わせて新しくしたものである。ノートパソコンにもタブレットにもなるものを設置した。他の学校はこれからになる。
- ・学校の机や椅子と同じで一度には無理である。
- ・トイレについては、時代とともに洋式化になってきている。平成12 年当時は、洋式と和式が5 対5、平成18 年頃から全部が洋式になっていった。
- ・庄東小学校や庄川小学校については、小規模校のハンディがないように交流授業を行って欲しい。
- ・子どもの貧困サービス、富山県は貧困率が低い、貧困対策を現場も行うがケースワーカー的な仕事は、こども課の相談員にお願いをしている。幼児の支援サービスは、貧困も含めて小中学生にも当てはめていく必要がある。

- ・ 貧困対策は、社会福祉課に専用の窓口をつくって総合的に話しを聞いている。こども課との連携もしていると思う。